

聾聴力障害新聞

2017年7月1日

第811号 月刊1日発行

発行所 一般財団法人全日本ろうあ連盟

編集部(〒602-0901)

京都市上京区室町通今出川下ル
織維会館内

FAX 075-441-6147

TEL 075-441-6079

発行人・石野富志三郎 編集人・小中栄一

購読料(年間、郵送料共、本体3,448円) 3,900円 郵便振替口座 01060-5-28898

日聴紙のホームページ: <http://jdn.jfd.or.jp/> メールアドレス: jdn@jfd.or.jp

今月号の見どころ

- 海外の手話言語法の制定から今後の取り組みを学ぶ (北海道・東京・京都で) 6面
- 手話市区長会が総会を開催「知事の会」への協力や手話演劇祭開催等を確認 6面
- 「笑って楽しく遊んだよ」大阪で乳幼児期の手話獲得支援事業 10面

国際色豊かに祝! 70周年

全国ろうあ者大会を福岡で盛大に



4100人を超える参加者が集った式典の冒頭。連盟の映像プロモーションと画面右端の国際手話通訳の表示に参加者は魅せられていた。写真右は式典で厚生文化賞を受賞しての謝辞を述べる松永氏

全日本ろうあ連盟は、創立70周年を記念した第65回全国ろうあ者大会(主管・福岡県聴覚障害者協会)を6月1日から4日まで福岡市の福岡国際センターをメインにして開催しました。福岡県での開催は、第12回大会以来2回目です。全国から4142人が参加し、秋篠宮同妃両殿下や世界ろう連盟(WFD)理事、マカオや韓国、香港のろう協会代表者が臨席される中、国際色豊かに盛り上がりました(関連記事2、6、11、12面)。

輝ける社会の構築めざし 手話言語への想いを紡ぐ

4日の式典では、スクリーン画面右に国際手話通訳が表示され、話し手の拡大映像、手話通訳、要約筆記の大型スクリーンへの投影等、視覚的な情報アクセスの工夫が凝らされ、手話言語への想いが溢れていました。



障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟は「デフリンピック支援ワーキングチーム(WT)」を発足させることになり、6月12日、衆議院第一議員会館で発足を開きました。国会議員16人をはじめスポーツ庁、日本スポーツ振興センター、日本障がい者スポーツ協会、筑波技術大学、全国聾学校校長会、日本財団、デフスポーツ団体、全日本ろうあ連盟や関東地域の聴覚障害者団体等、約60人の参加がありました。

ろう者に関わる議員連盟を初めて発足

まず、WTの役員として、座長を衛藤晟一氏、幹事長を羽田雄一郎氏、事務局長を駒浩氏とする他、事務局次長に薬師寺みちよ氏や、幹事に今井絵理子氏らが入る案が承認されました。続いて、スポーツ庁のデフリンピックに関する取り組み状況の報告、連盟の石

議員連盟とスポーツ庁、全日ろう連関係者で記念写真



野富志三郎理事長の挨拶の後、スポーツ委員会から山根昭治委員長、倉野直紀事務局長がデフリンピック・サムスンへの派遣について報告。質疑応答では6人の議員から、韓国でのデフリンピックの認知度が高い理由、日本で認知度を上げる取り組み、練習環境や派遣団派遣に関する状況等の質問があり、最後に羽田幹事長が「日本における認知度をオ



スポーツ庁の鈴木大地長官(中央)と山根委員長(右)と倉野事務局長が面会

リンピック、パラリンピックと同等に高め、選手の競技環境、手話通訳の保障、行政の支援等が一体になってデフリンピックを支援できるような頑張りたい」とまとめられました。スポーツ委員会はこの日、スポーツ庁や駐

日トルコ大使館を訪問し、デフリンピックやデフスポーツについての意見交換を行いました。(デフリンピック関連記事・本紙7面)

歴史的な誕生に喜び 山根昭治委員長談

国会議員に初めてデフリンピック選手団を応援していたから10年を経て、薬師寺議員らのご尽力等で国会議員によるデフリンピック応援団が誕生したことは、まさに歴史的なことであり、嬉しく思います。国民の皆さんを始め、選手の所属している会社へも、より一層の理解促進が図られ、選手

デフリンピック支援へ!

速報

リオオリンピック主将 吉田沙保里選手も デフリン応援!

レスリング選手で、2016年のリオオリンピック主将の吉田沙保里選手もデフリンピックを応援しています。デフリンピック日本選手団の早瀬久美主将が吉田選手に面会。吉田選手は高校生のときに手話を習ったことがあります。6月28日実施の177人の日本選手団の壮行会で流されるビデオメッセージで、応援のメッセージを収録し、エールを送りました。「平常心で戦うことで自分の実力が発揮できます。いつもの平常心で力を出し切ってください。頑張れ! ニッポン! ガンバレー!」



吉田さん(左)。早瀬主将とデフリンピックのハンドタオルを手に